

爆釣への道は 熟読にアリ!!

安心ガイド

船ビシアジ、イカ釣りセット

マアジ、イカバージョン

当ガイドは、釣行に「必要なもの」から「道具の扱い方とセッティング」、「釣るコツ」を紹介。一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

★出掛ける前に必要な小物を購入

お買い物リスト

釣行前日までに準備! 疑問があったら釣具店に!!

- インターロック付きヨリモシ
 - サイズ 2~3号
 - 1~2個
 - スナップ付きヨリモシでも構いません。
- 仕掛け
 - 2~3つ用意
 - 「ビシアジ仕掛け」
- その他あると便利グッズ
 - 「フィールドブライヤー」や「偏光サングラス」などは、「ゴールドマニュアルブック」の154ページを参考に用意しましょう。

ロッドホルダーは、ほとんどの船宿でレンタルできますが、確認しておきましょう。

●ロッドホルダー

ビシアジには…

- 中型片テンピン 1つ
 - 一般的に腕長30~50cm前後を使います。
- ビシ 1つ
 - 釣るエリアによって、大きさや形、重さが決まっています。ほとんどの船宿でレンタルすることができます。
- クッションゴム 1~2本
 - 太さ 1~1.5ミリの30~50cmが、一般的です。
- エサ 赤タンまたはイソメを1パック
 - これで1日楽しめます。通常は船宿が赤タン(赤く染めた5cm角のイカ)を配ってくれます。ただし濁り潮に強いイソメまでは…。用意しておくて役立ちます。

イカには…

- オモリ 2~3個
 - 狙う水深によって号数(重さ)が異なるので、船宿で要確認です。
- 投入器 1つ
 - 基本的に船宿で借りることができますが、事前に連絡を入れておきましょう。

※船宿には、小物や仕掛け、エサを用意しているところがあります。必ず出掛ける船宿に必要なものを確認してから購入しましょう。

★釣るための準備

釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣りを!

【ベイトリールと電動リールの特徴】

ドラッグ調整も行おう

つまみを回して圧を調整します。ファイト中、魚の引きにハリスやリーダーが耐えきれず負ける(切れる)寸前に、ラインが出るようにセットします。詳しくは、ゴールドマニュアルブック133ページをチェック!

ベイトリール

スプール(糸巻き)が回転して糸を巻き取るタイプ。

- クラッチ**
 - クラッチを押すとスプールの回転がフリーになる。道糸を出したい時に使います。
- レベルwind**
 - スプールに道糸を均等に巻く装置。ハンドルを巻くと、この部分が左右に動きます。
- ドラッグ**
 - 回して道糸の出具合を調整します。
- ハンドル**
 - 道糸を巻くためのとってです。

電動リール

ベイトリールの巻き上げを電動化したリール。

- 水深計**
 - 仕掛けの位置を示す。タナ合わせの目安になります。
- パワーバー(アクセル)**
 - このつまみを上下させることで巻き上げスピードが変わります。
- ドラッグ**
 - 回して道糸の出具合を調整します。
- バッテリー**
 - レンタル釣具では付属品として、コンパクトバッテリーを2個貸し出しています。ジョイント部のネジをしっかり止めて海に落とさないようにしましょう。
- クラッチ**
 - ベイトリール同様です。

【釣具のセッティング】

ビシアジ用

各イカ用

1~4、または5の順でセットしよう

1 ロッドを組み立てる

良い例・悪い例

穂先から順に続いていくこと。継ぎ目の根元を持ち、ジョイント部を合わせ、軽くねじ込むように押し込みます。道糸を通すガイドを一直線にすることも忘れずに!

2 ロッドのガイドに道糸を通す

- 親指をクラッチに載せ、下に押し込んでクラッチを切って道糸をフリーにします。
- レベルwindに道糸を通し、③先端のガイドまで通しきつたら、道糸にゆとりを持たせます。
- その後、④クラッチを上げて戻すか、ハンドルを1回巻いてクラッチを戻して終了です。

3 道糸に仕掛けをセット

8の字結びの箱掛けで道糸の先端をインターロック式、またはクリップ付きヨリモシに結び、各仕掛けを取り付けます。

- 道糸で8の字結びを作る。
- 箱掛けにする
- クリップにテンピン、もしくは仕掛け類をセット

4、5 クッションゴム、仕掛けを付けて終了

片テンピンの腕先にあるクリップを開き、クッションゴムをセット。その先にあるクリップに仕掛けを付けて完了です。

5 仕掛け、オモリをつけて完了

クリップ部にオモリのアイ(環)を通して止めます。

※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!

仕掛け投入と回収法

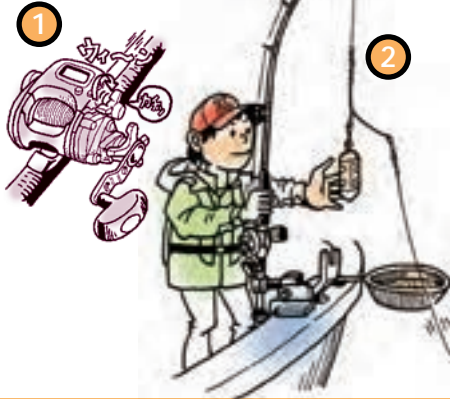
●ビシアジ釣りの場合

投入法



仕掛けを海面に落としたり、素早くテンピンをつかみ、リールのクラッチを切って落とします。
 なお電動の場合は、仕掛け落とす前に、電源が入っているかを確認。リセットボタンで電動リールの「水深計」の数字を「ゼロ」設定にしましょう。

回収法



①手動はハンドル。電動ならパワーレバーのアクセルをひねって道糸を巻き上げます。
 ②竿を立ててテンピンが手元にくる位置まで巻いたら、ロッドホルダーに竿を掛け、竿を起しながらテンピンをつかみましょう。ビシをコマセバケツの中に入れて、ハリスを手繰り寄せて終了となります。

●イカ釣りの場合



投入法

オモリを前方に軽く投げるだけで済む「投入器」を使用します。投入前に穂先に道糸が絡んでないか？ リールのクラッチをオフにしているかの確認を忘れずに行いましょう。

回収法

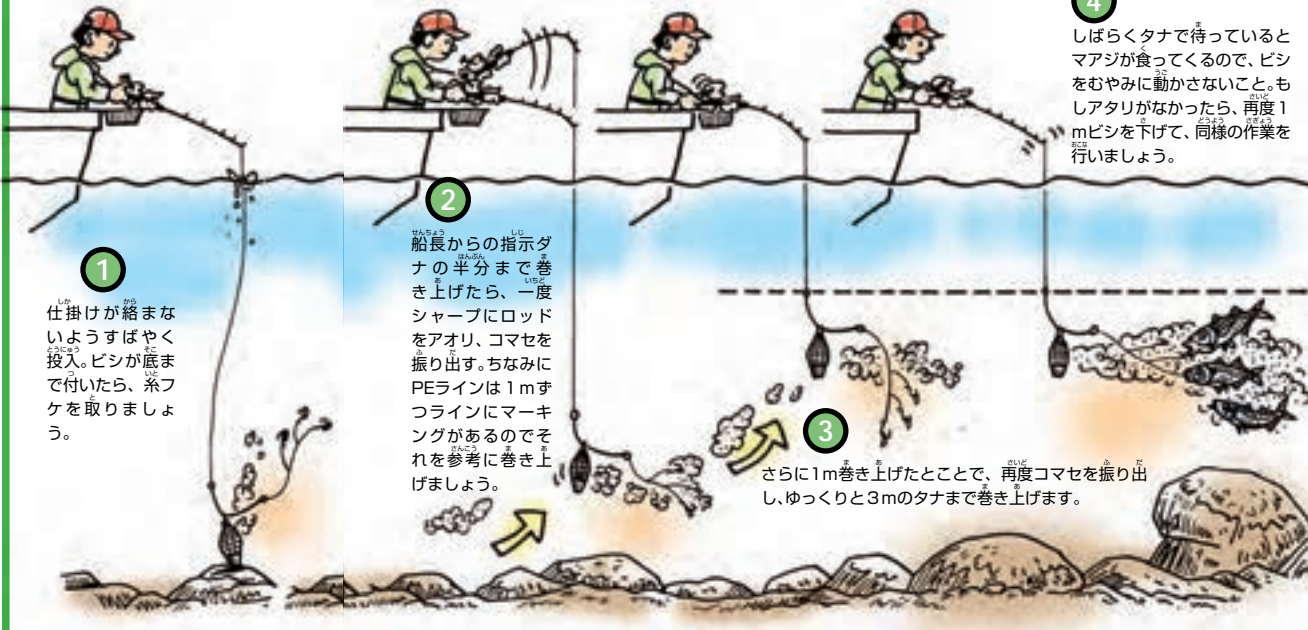


投入器にツノをしまし手と、新たなツノをつかむ手にわけ、リズムよく収納していきます。最初のツノを投入器にしまし手、空いている手は幹糸を滑らせ、ふたつ目のツノをつかむのがポイントです。

その後はツノを持ち変え、同様につかんで行き、最後のオモリまでゆるめないように手繰り寄せましょう。

★釣り方のコツ：ビシアジ 編

仕掛けを指示されたタナまで巻く間がポイント！
 コマセをシャープに振り出して魚を誘っておこう



★ポイントはココ
 船釣りのポイントは、海底付近から3m前後上のタナを狙います。マアジの外道でサバが良く釣れますが、これは棚が高い証拠と覚えましょう。

④しばらくタナで待っているとマアジが食ってくるので、ピンをむやみに動かさないこと。もしアタリがなかったら、再度1mピンを下げて、同様の作業を行いましょう。

②船長からの指示ダナの半分まで巻き上げたら、一度シャープにロッドをアオリ、コマセを振り出す。ちなみにPEラインは1mずつラインにマーキングがあるのでそれを参考に巻き上げましょう。

③さらに1m巻き上げたことで、再度コマセを振り出し、ゆっくりと3mのタナまで巻き上げます。

★釣り方のコツ：イカ 編

スルメはシャープなシャクリ！
 ヤリはソフトなリフト&フォールで誘って乗せる!!

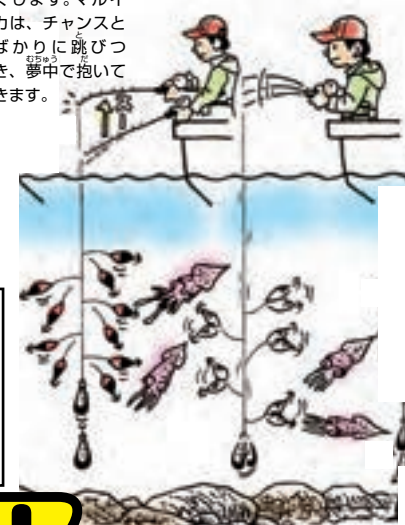
★ポイントはココ
 スルメとマルイカは底から中層。ヤリイカは底付近に棲息し、3種ともエサとなる小魚や甲殻類を追い求め移動しています。

③船長からの指示ダナの範囲をギョングンギュンとハードに攻めること。イカからのシグナルがない場合は、上げた分の道糸を巻きながらロッドを海面に戻し、同様に探り、指示ダナの上限まで行いましょう。

②ベタ底で、仕掛けを上下にゆっくりと誘い上げたり、下げたりしてヤリからのアタリを待ちましょう。

マルイカの誘いは、シェイキング&ストップ

①底付近でシェイキング、ストップをブルブルと揺らし、マルイカにアピール。そして抱きつきたくても抱けないようにします。
 ②揺れを止め、ストップに抱きつきやすくします。マルイカは、チャンスとばかりに跳びつき、夢中で抱いてきます。



※穂先絡みや巻き込み過ぎに要注意!



船釣りでは、気付かぬうちにラインが穂先に絡まっていることが多くあります。そのままキャストしてしまったりすると事故の元。マメにチェックして快適に楽しめましょう。
 また、取り込み時の仕掛け（テンピンやビシ）の巻き込み過ぎも多く見受けられます。こちらも穂先を痛めることにつながるので要注意。穂先の20～30cmくらい手前で仕掛けを止める癖をつけましょう!

※むやみにロッドを地面に置かない!

自分はもちろん、他の人に踏まれて折れることがあります。ロッドを置く場合は、荷物に立て掛けるなど、地面に寝かせないように置きます!!

コマセは8分目程度詰めるのが基本だ

詰めすぎれば出が悪く、少ないとすぐなくなります。目安は、ビシカゴの8分程度で、仕掛けを回収する時に全てを出し切っている状態がベストと言えます。

エサとエサ付け

食紅で赤く染めたイカを5mm角に切った（赤タン）はチョン掛け。アオイソメは1cmくらいにカットして通し刺しましょう。



※かたづけ上手は、釣り上手！返却日前日までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日まではお手入れをし、元通りに梱包しましょう。また釣具にキズを付けたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れてください。

ロッドをたたむ場合は…

バッド部の継ぎ目から順に外して行きましょう。ジョイント部がキック締まっている場合は、継ぎ目の部分を持ち、雑巾を絞るようにネジリながら引くとうまく抜けます。くれぐれも先端を持って外さないこと。穂先が折れてしまうので要注意!